

話題 5 8

高齢化社会を迎えて ～いつまでも学ぶ意欲を～

映画「あん」の最終章での主人公の言葉が脳裏に焼き付いている。16歳でハンセン病を発症し、その生涯を療養所という閉ざされた空間の中で生活することを余儀なくされた主人公の人生経験から得られた結論である。社会的にも、精神的にも「差別」と称された「鎖」からの解放である。

「私たちはこの世を見るために、聞くために、生まれてきた。・・・だとすれば、何かになれなくても、私たちは生きる意味があるのよ」と。私利私欲で渦巻く競争社会の中で、極端に高い壁にぶつかり、とてつもない重い十字架を背負い、そして挫折を味わう。それも、幾度となく。悲喜こもごもの出会いの中で、「乗り越える」、「成功する」ことが目的ではなく、これらを経験するために生まれてきたとの主人公の人生の解釈と理解したい。

日本の老年医学の草分け、米寿を迎えた小澤利男先生が語る3つの「S」を紹介したい。何歳になっても、学習意欲を維持することは大事であるとの前置きがあり、1、Sapiens：25万年の過去を有するホモ・サピエンスは、今なお進化の過程にある。2、Science：500年前に始まった科学革命は、加速度をもって進歩・発展を続けている。3、Silence：自然は沈黙しているが、未知の分野が広大である。よって、学ぶことの姿勢として、常に謙虚で、自然に対しては畏敬の念を持つことが大事だと思うとの解説である。

これらの歴史と現実を見て、聞いて、考えるにはあまりにも100年という単位は短い。時間は大切に用いたい。ささいな喧嘩に費やす時間はない。ましてや、自然を破壊しての抑止力と称する戦争の準備に費やす膨大な税金と時間は、次の世代へ重荷を課することになる。

あるハンセン病患者さんの経験談である。戦時中、南洋の島で発症した。戦況もさることながら、戦地では治療のできる状況にはなかった。部隊長の下した判断で、島のジャングルの奥の奥へと連れて行かれ、捨てられたとのことである。人が人である。水を、魚を、食用となる草を求めてさまよい、生き延び、終戦も間近、米軍に拾われたとのことであった。

イギリスの歴史家、トインビーの言葉である。「古い世代は若い世代に学ばなければならない。しかし、若い世代は古い世代の経験を必要とする。それが、歴史である」と。

膝が、腰が痛む。目がかすむ。しかし、まだまだ時の流れを見て、聴いて、考えて、自然の沈黙の意味を探ることと戦争の残忍さを語り伝えていく任務が残されている。さて・・・と。

論壇

映画「あん」の最終章での主人公の言葉が脳裏に焼き付いている。16歳でハンセン病を発症し、その生涯を療養所という閉ざされた空間の中で生活することを余儀なくされた主人公の人生経験から得られた結論である。社会的にも、精神的にも「差別」と称された「鎖」からの解



石川 清司

尽きない自然への探究心

若い世代に語り伝える覚悟

味わう。それも、幾度となく。悲喜ももごもごの出会いの中で、「乗り越える」、「成功すること」が目的ではなく、これらを経験するために生まれてきたとの主人公の人生の解釈と理解したい。

日本の老年医学の草分け、米寿を迎えた小澤利男先生が語る三つの「S」を紹介したい。何

然は沈黙しているが、未知の分野が広大である。よって、学ぶことの姿勢として、常に謙虚で、自然に対しては畏敬の念を持つことが大事だと思ふことの解説である。

これらの歴史と現実を見て、聞いて、考えるにはあまりにも100年という単位は短い。時

がら、戦地では治療のできる状況にはなかった。部隊長の下した判断で、島のジャンゲルの奥の奥へと連れて行かれ、捨てられたとのことである。人が人である。水を、魚を、食用となる草を求めてさまよい、生き延び、終戦も間近、米軍に拾われたとのことであった。

イギリスの歴史家、トインビーの言葉である。「古い世代は若い世代に学ばなければならぬ。しかし、若い世代は古い世代の経験を必要とする。それが、歴史である」と。

放である。

「私たちはこの世を見るために、聞くために、生まれてきた。…だとすれば、何かになれなくても、私たちは生きる意味があるのよ」と。私利私欲で渦巻く競争社会の中で、極端に高い壁にぶつかり、とてつもない重い十字架を背負い、そして挫折を

歳になっても、学習意欲を維持することは大事であるとの前置きがあり、①Sapiens 25万年の過去を有するホモ・サピエンスは、今なお進化の過程にある②Science 500年前に始まった科学革命は、加速度をもって進歩・発展を続けている③Silence 自

間は大切に用いたい。ささいなけんかに費やす時間はない。ましてや、自然を破壊しての抑止力と称する戦争の準備に費やす膨大な税金と時間は、次の世代へ重荷を課することになる。あるハンセン病患者さんの経験談である。戦時中、南洋の島で発症した。戦況もさることな

膝が、腰が痛む。目がかすむ。しかし、まだまだ時の流れを見て、聴いて、考えて、自然の沈黙の意味を探ることと戦争の残忍さを語り伝えていく任務が残されている。さて…と。
(名護市、介護老人保健施設「あけみおの里」施設長、68歳)